

PAT-NO: JP405242338A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05242338 A

TITLE: BANKBOOK PAYING DEVICE

PUBN-DATE: September 21, 1993

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TANIGUCHI, TSUTOMU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

OKI ELECTRIC IND CO LTD

N/A

APPL-NO: JP04043240

APPL-DATE: February 28, 1992

INT-CL (IPC): G07D009/00, G06F015/30 , G07D001/00 , G07D009/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a bankbook paying device capable of attaining paying transaction only by the use of a bankbook and storing the record of the bankbook and having excellent convenience and safeness.

CONSTITUTION: The bankbook paying device 22 is provided with an account number/seal slip reading part 11 for reading out an account number and a seal slip recorded in a bankbook and a journal printing part 23 for printing out the account number and the seal slip read out by the reading part 11. The printing part 23 prints out data in journal paper for a bank copy, so that the record of the used bankbook is stored.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-242338

(43)公開日 平成5年(1993)9月21日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 7 D 9/00	4 3 6 A	8513-3E		
G 0 6 F 15/30		K 6798-5L		
G 0 7 D 1/00	3 7 1	9145-3E		
9/00	4 3 1 B	8513-3E		

審査請求 未請求 請求項の数2(全 7 頁)

(21)出願番号 特願平4-43240

(22)出願日 平成4年(1992)2月28日

(71)出願人 000000295

沖電気工業株式会社

東京都港区虎ノ門1丁目7番12号

(72)発明者 谷口 勉

東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 沖電気
工業株式会社内

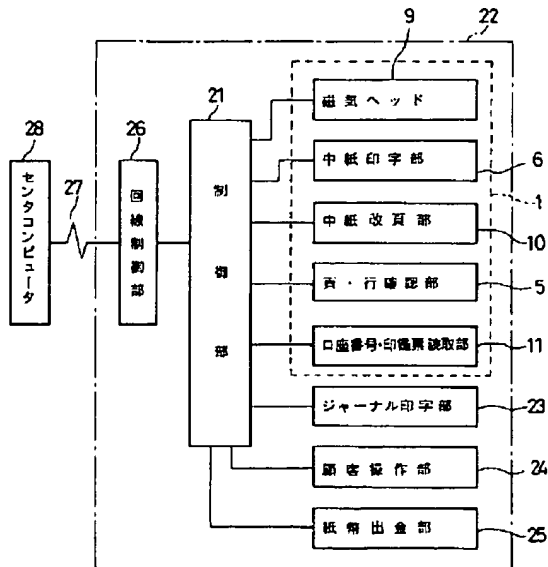
(74)代理人 弁理士 鈴木 敏明

(54)【発明の名称】 通帳支払装置

(57)【要約】

【目的】 通帳のみで支払取引を可能とするとともに、通帳の記録を残して、利便性および安全性に優れた通帳支払装置を提供する。

【構成】 通帳支払装置22に、通帳の口座番号、印鑑票を読取る口座番号・印鑑票読取部11および該読取部11で読取った口座番号、印鑑票を印字するジャーナル印字部23を設ける。ジャーナル印字部23は銀行側控用のジャーナル用紙に印字し、使用した通帳の記録が残る。



第1実施例の通帳支払装置を示すブロック図

【特許請求の範囲】

【請求項1】 通帳に貼付された磁気ストライプを読取り、磁気ストライプから読取った顧客情報に基づいて支払取引を実行する通帳支払装置であって、通帳に記された顧客認証情報を読取る読取手段と、読取った顧客認証情報を控用紙に印字する印字手段とを設けたことを特徴とする通帳支払装置。

【請求項2】 通帳に貼付された磁気ストライプを読取り、磁気ストライプから読取った顧客情報に基づいて支払取引を実行する通帳支払装置であって、通帳に記された顧客認証情報を読取る読取手段と、読取った顧客認証情報を控用紙に印字する印字手段と、顧客認証情報の有無を識別する識別マークと、識別マークを認識する認識手段と、認識手段の認識結果により顧客認証情報の有無に応じて支払取引の可否を制御する制御手段とを設けたことを特徴とする通帳支払装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、金融機関等に設置され、通帳による支払い取引が可能な通帳支払装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、銀行等の金融機関では、自動的に支払い業務のできる自動支払装置が普及し、広く利用されている。こうした自動支払装置を使用する場合には、顧客情報を記録したカードと通帳を用いるか（特公平2-15900号公報参照）、又はカードのみを用いる（特公平3-30904号公報参照）か、何れにしてもカードを用いて支払取引を行っていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら上記従来の装置では、通帳のみを金融機関に持参し、カードを忘れた場合は、支払取引ができないという問題があった。

【0004】また単に通帳のみで支払取引を可能にすることは、銀行側に取引の記録が残らないので、第三者による犯罪を誘発する原因になるという問題もあった。

【0005】本発明は上記問題点を鑑みてなされたもので、その目的は、通帳のみで支払取引を可能とし、しかも取引の際通帳の記録を残すことにより、利便性および安全性に優れた支払装置を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために本発明は、通帳に貼付された磁気ストライプを読取り、磁気ストライプから読取られた顧客情報に基づいて支払取引を実行する通帳支払装置であって、通帳に記された顧客認証情報を読取る読取手段と、読取った顧客認証情報を控用紙に印字する印字手段とを設けたものである。

【0007】また第2の発明として、上記手段に加えて

さらに、顧客認証情報の有無を識別する識別マークと、識別マークを認識する認識手段と、認識手段の認識結果により顧客認証情報がない場合は支払取引を中止する制御手段とを設けたものである。

【0008】

【作用】通帳を通帳支払装置に挿入すると、磁気ストライプから顧客情報が読取られ、この顧客情報に基づいて支払取引が行われる。その際、通帳に記された顧客認証情報が読取手段により読取られる。そして読取られた顧客認証情報は印字手段により銀行側控用紙に印字される。これにより使用された通帳が記録されることになる。

【0009】また識別マークおよび該識別マークを認識する認識手段を設けた場合には、顧客認証情報がない場合には支払取引を行わないようにしたので、使用した通帳が特定されない場合には取引できないことになり、第三者による不正使用を防止できる。

【0010】

【実施例】以下本発明に係る実施例を図面にしたがって説明する。なお各図面に共通する要素には同一の符号を付す。

【0011】図1は本発明に係る第1実施例の通帳支払装置を示すブロック図、図2は第1実施例の通帳記帳部を示す概略側面図であり、まず第1実施例について説明する。

【0012】最初に図2にしたがって通帳記帳部を説明すると、まず通帳記帳部1の左側には挿入口2が設けられ、ここから通帳3が挿入される。挿入口2の内側には搬送部4が設けられ、さらにその奥方には頁・行確認部5および中紙印字部6が設けられている。搬送部4にはプーリ7a、7b、7c、7dに一对のベルト8a、8bが巻装されており、この一对のベルト8a、8bに挟まれて通帳3が搬送される。また搬送部4には通帳3の搬送位置に対向して磁気ヘッド9が配設されている。頁・行確認部5は光学センサから構成され、通帳3の頁および行を読取る。また中紙印字部6は印字ヘッド6aおよびプラテン6bから成り、通帳3に印字を行う。

【0013】中紙印字部6の奥方には中紙改頁部10が設けられ、改頁ローラ10aにより通帳3の中紙をめくる。その奥には口座番号・印鑑票読取部11が配設されている。口座番号・印鑑票読取部11は光学センサから成り、通帳3に記載又は貼付してある口座番号、店番および印鑑票（後述）を読取る。また最奥部には通帳取込部12が形成されており、この通帳取込部12には顧客の取忘れた通帳あるいは取引できない不正通帳が取込まれる。また通帳記帳部1には通帳3を搬送する搬送ローラ13が各所に配設されている。

【0014】次に図1にしたがって第1実施例の構成について説明する。図1において、制御部21はマイクロコンピュータ又は論理回路で構成され、通帳支払装置2

2全体を制御する。制御部21には上述した通帳記帳部1の各部が接続され、制御部21はこれら各部を制御する。また制御部21にはジャーナル印字部23、顧客操作部24および紙幣出金部25が接続され、制御部21はこれらを制御する。

【0015】ジャーナル印字部23は、装置22内に収納されている銀行側控え用のジャーナル用紙に取引内容等を印字するものである。顧客操作部24は、顧客が暗証番号や金額を入力するもので、タッチセンサ式ディスプレイから構成される。紙幣出金部25は、紙幣を収納しておき、制御部21の命令により指定された金額の紙幣を顧客に対して放出するものである。

【0016】また制御部21は回線制御部26および通信回線27を介してセンタコンピュータ28に接続されている。センタコンピュータ28には顧客に関する情報がファイルとして記憶されている。

【0017】次に取引に使用される通帳3について図3を用いて説明する。同図において、通帳3の裏表紙3aには、顧客(通帳所有者)の情報が書込まれた磁気ストライプ29が貼付されている。また中紙の最終頁3bには、顧客の口座番号30、銀行の店番31が記載され、また顧客の印鑑票32がシールにより貼付されている。

【0018】次に第1実施例の動作を図4に示すフローチャートにしたがって説明する。図4は第1実施例の動作を示すフローチャートである。

【0019】支払取引を行う場合、まず顧客は顧客操作部24の払戻し用タッチキーを押下する(ステップ1)。次に通帳記帳部1の挿入口2へ通帳3を挿入する(ステップ2)。通帳3は搬送部4のベルト8a、8bにより搬送され、このとき磁気ヘッド9により通帳3の磁気ストライプ29からデータが読取られる(ステップ3)。磁気ストライプ29には顧客の氏名、口座番号および取扱銀行名がコードとして記憶されており、これらの情報が読取られる。読取られた情報は、制御部21から回線制御部26を介してセンタコンピュータ28へ送られる。

【0020】また顧客は次に顧客操作部24から暗証番号を入力する(ステップ4)。入力された暗証番号は制御部21によりセンタコンピュータ28へ送られる。センタコンピュータ28では、上記ステップ3で送られた顧客情報からファイルに記憶してある暗証番号を読み出し、これと顧客が入力した暗証番号を照合し、本人確認を行う。この結果本人であることが確認されれば、その旨の信号が通帳支払装置22へ送られる(ステップ5)。

【0021】次に顧客は顧客操作部24から支払金額を入力する(ステップ6)。制御部21は入力された金額を顧客操作部24のディスプレイに表示し、顧客に確認を促す。顧客が確認キーを押下すると(ステップ7)、次に通帳記帳部1の頁・行確認部5で通帳3の開かれた

頁を認識する(ステップ8)。次に通帳3は中紙改頁部10へ搬送され、ここで中紙をめくり上げ、図3に示す最終頁3bを開く(ステップ9)。この状態で通帳3を口座番号・印鑑票読取部11へ送られ、ここで図3に示す口座番号30、店番31および印鑑票32が光学的に読取られる(ステップ10)。読取られたイメージデータは制御部21へ送られる。

【0022】次に通帳3は中紙改頁部10へ戻され、取引データを印字すべき頁まで中紙めくりを行う(ステップ11)。そして印字ヘッド6aにより中紙に取引データを印字する。また、口座番号・印鑑票読取部11で読取られたイメージデータは制御部21からジャーナル印字部23へ送られ、ここでジャーナル用紙33へ図5に示すように印字する。一方、ステップ7で確認した後、紙幣出金機25では指定された金額の紙幣が計数されて繰出される(ステップ12)。通帳記帳部1では取引データを印字した後、通帳3は搬送部4により挿入口2まで送り戻され、顧客に返却される(ステップ13)。また繰出された紙幣は顧客受取り位置まで排出されて(ステップ14)、取引を終了する。

【0023】以上説明したように本実施例では、通帳のみで支払取引が可能であるとともに、取引の際ジャーナル用紙33に使用した通帳の物的証拠となる印鑑部を印字するものである。なお、上記実施例では、口座番号・印鑑票読取部11で読取った後取引データを通帳3に印字しているが、この順序を逆にしてもよいことはいうまでもない。

【0024】次に本発明に係る第2実施例を説明する。図6は第2実施例の通帳支払装置で使用する通帳を示す説明図で、通帳3には印鑑票32があるか否かを示すためのバーコード35が設けられている。このバーコード35は、図7に示すように、印鑑票32に貼付されこれを保護する印鑑シール36に付けられており、もし通帳3に印鑑票32がなければ、バーコード35もないことになる。

【0025】第2実施例のその他の構成は第1実施例と同様である。したがって第1実施例の図1、図2を流用して、次に第2実施例の動作を図8に示すフローチャートにしたがって説明する。

【0026】取引開始後ステップ21からステップ25までは第1実施例のステップ1からステップ5までと同様である。ステップ25で暗証番号の一致が得られると、通帳3は通帳記帳部1の頁・行確認部5で開かれた頁を認識され(ステップ26)、次に中紙改頁部10へ搬送される。ここで改頁ローラ10aにより中紙がめくり上げられ、図6に示す最終頁が見開かれる(ステップ27)。次にこの状態で口座番号・印鑑票読取部11へ送られて、ここで印鑑シール36のバーコード35が読取られる(ステップ28)。もしバーコード35がなければ、即ち印鑑票32が無ければ、制御部21は取引を

5

中止し、通帳3を顧客へ返却する(ステップ29)。バーコード35があれば引き続き口座番号30、店番31、印鑑票32を読み取り(ステップ30)、読取ったイメージデータを制御部21へ送る。

【0027】一方、顧客は顧客操作部24で金額を入力し(ステップ31)、引き続き確認キーを押下する(ステップ32)。通帳3は頁・行確認部5まで戻され、ここで開かれた頁が認識される(ステップ33)。次に通帳3はこの状態で中紙改頁部10まで搬送され、ここで、取引データを印字すべき頁まで中紙をめくる(ステップ34)。次に中紙印字部6で取引データが印字される。また第1実施例と同様に、口座番号・印鑑票読取部11で読取ったイメージデータがジャーナル印字部23でジャーナル用紙33に印字される。この印字例を図9に示す。また紙幣出金部25から指定された金額の紙幣が繰出される(ステップ35)。そして通帳3および紙幣を顧客が受取ることにより(ステップ36、37)、取引が終了する。

【0028】以上説明したように第2実施例では、通帳3に印鑑票32が無ければ、支払取引を不可能にしている。印鑑登録されていない通帳3で支払取引を行った場合、使用した通帳3の物的証拠が記録されなくなり、第2実施例ではこれを防止している訳である。

【0029】

6

【発明の効果】以上詳細に説明したように本発明によれば、通帳の印鑑票等を読取って銀行側の控え用のジャーナル用紙に印字するようにしたので、通帳のみによる支払取引を、使用した通帳の物的証拠を記録する形で、可能にする。したがって、通帳のみ持参してカードを忘れた場合でも支払取引ができるばかりでなく、第三者による犯罪等を未然に防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る第1実施例の通帳支払装置を示すブロック図。

【図2】第1実施例の通帳記憶部を示す概略側面図。

【図3】通帳を示す説明図。

【図4】第1実施例の動作を示すフローチャート。

【図5】ジャーナル用紙の印字例を示す説明図。

【図6】第2実施例の通帳を示す説明図。

【図7】印鑑シールを示す図。

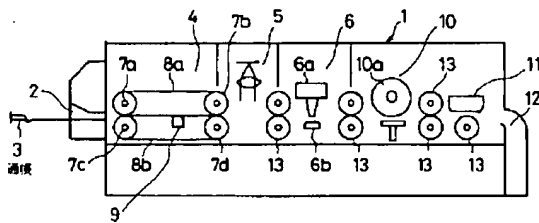
【図8】第2実施例の動作を示すフローチャート。

【図9】第2実施例のジャーナル印字例を示す説明図。

【符号の説明】

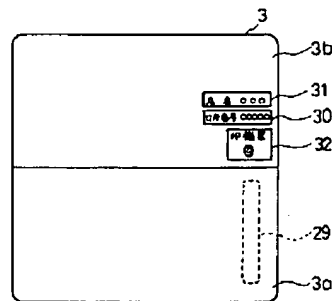
- 3 通帳
- 9 磁気ヘッド
- 11 口座番号・印鑑票読取部
- 23 ジャーナル印字部
- 29 磁気ストライプ

【図2】



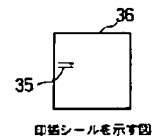
第1実施例の通帳記憶部を示す概略側面図

【図3】



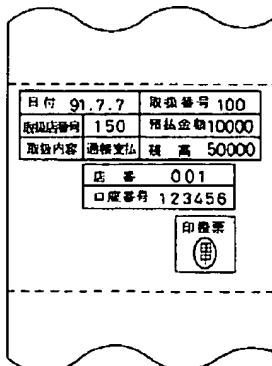
通帳を示す説明図

【図7】



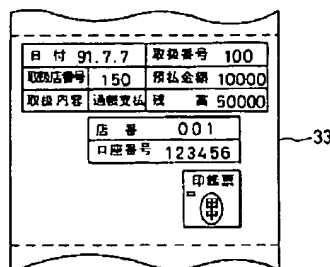
印鑑シールを示す図

【図5】



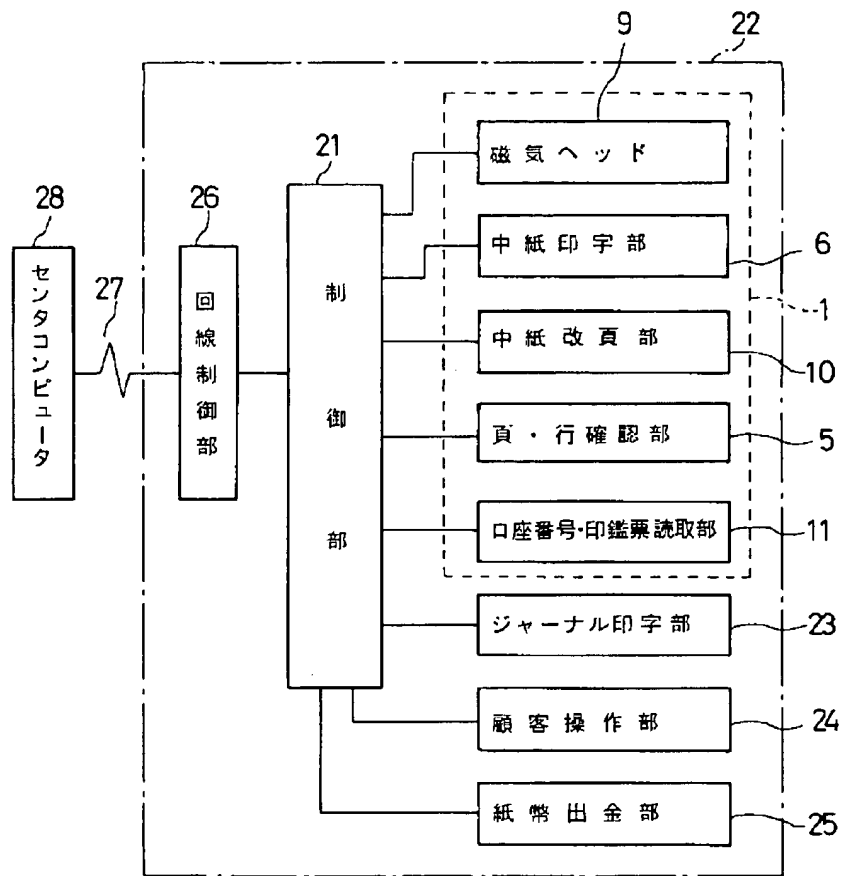
ジャーナル用紙の印字例を示す説明図

【図9】



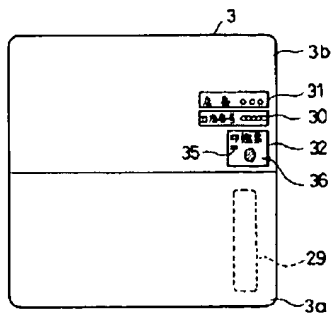
第2実施例のジャーナル印字例を示す説明図

【図1】



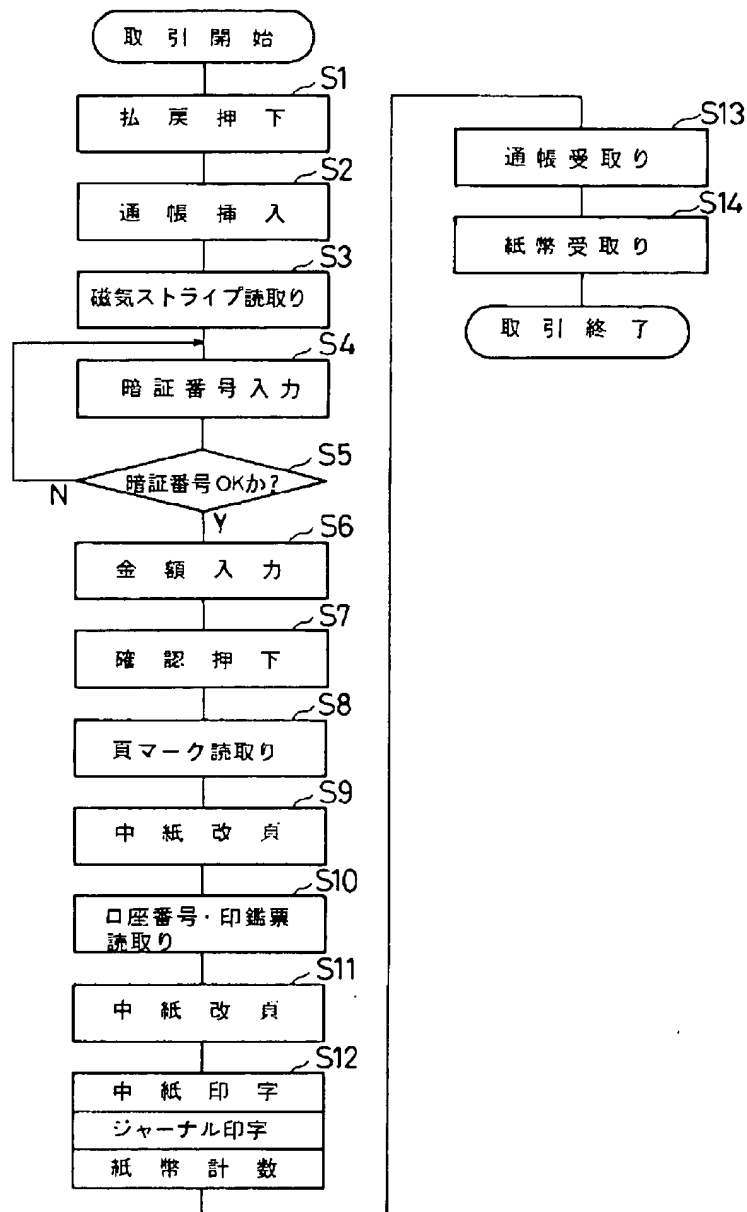
第1実施例の通帳支払装置を示すブロック図

【図6】



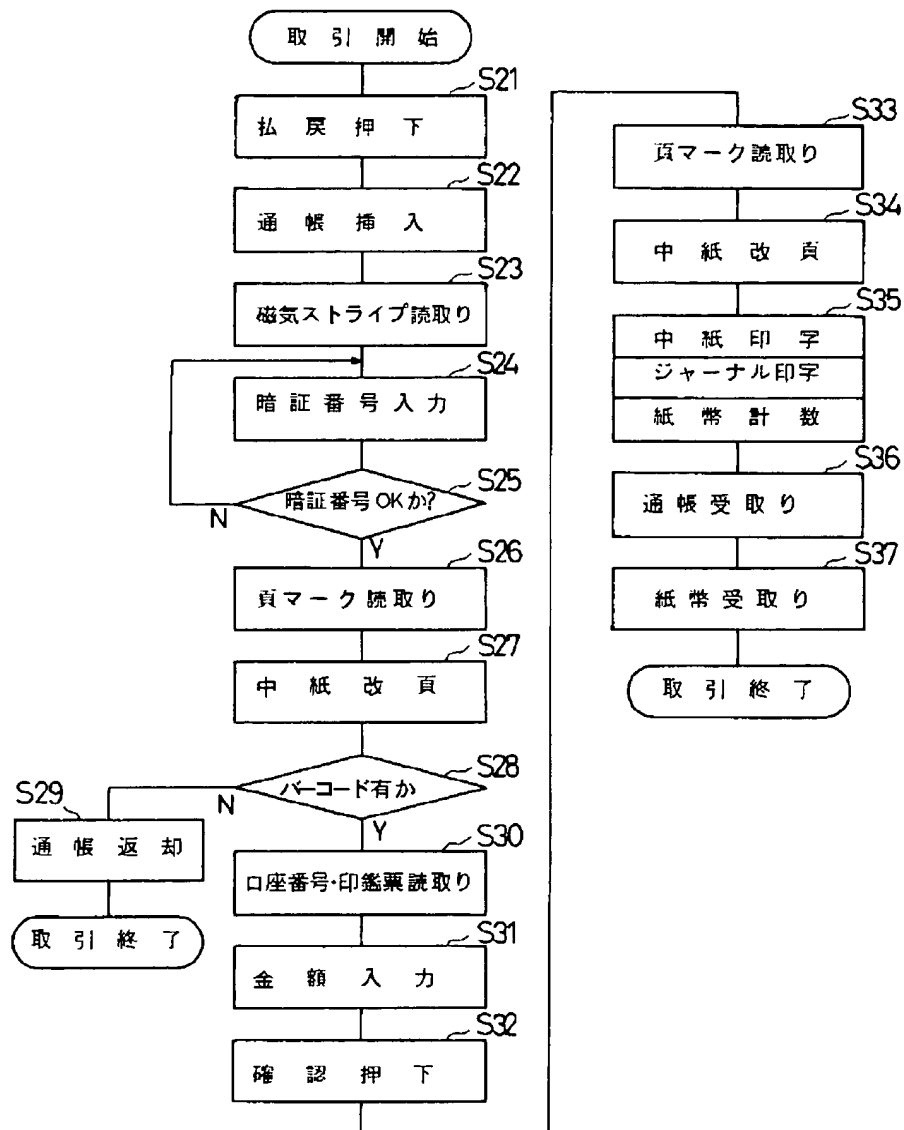
第1実施例の通帳を示す説明図

【図4】



第1実施例の動作を示すフローチャート

【図8】



第2実施例の動作を示すフローチャート